

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

中核地域生活支援センター連絡協議会の使命について ～ご挨拶に代えて～

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
会長 池口紀夫

本協議会の前会長であり、かつ千葉県の福祉、特に障害者福祉全体を牽引されてきた巨星ともいえるべき細淵さんが亡くなられて、これからの中核地域生活支援センター（以下、中核センターと略称）の歩く道を照らす灯台の光はどうなるのだろうかという不安に襲われていましたが、その後任の重責を仰せつかり、どうしたらよいのか戸惑っております。そういう時は千葉県の福祉を担っていただける皆様のご協力を仰ぎ、意見を伺い、よきネットワークを形成しながら、その中で中核センターの使命を見定めていきたいと思っております。

中核センターは7年前、高い志と理念を与えられてスタートしました。当初その理念をどう具体化していくのか、どう形に結実させていくのか悪戦苦闘してきました。もし、各圏域のセンターにのみそのことが委ねられていたならば、到底できないことだったと思います。

何よりも当事者の相談者の方々の思いを受け止めることを基礎的な作業としながら、地域の関係者の方々の意見やアドバイスをいただき、仕事の見直しを重ねてきました。また、県の指導や年1回開かれるこの事業のために県に設置されている「評価委員会」の実績評価を受けながら仕事の点検作業を重ね、1年1年いわゆる「費用対効果」を含めて実績の総括を重ねてきました。

そういった事業を適正に進めるための仕掛けに支えられながらも、自ら主体的にこの事業の適正化を図り、真に地域住民のニーズに応えうる事業の質の向上を図るための役割を果たしてきたのがこの「連絡協議会」でした。これからも、まず自分たちが実践してきたことを常に総括しながら、「事業の標準化」をまとめ県民および県内各関係機関のご理解をいただくことに努めたいと思います。さらに事業の指針をリニューアルしながら事業の歩む道筋を明確にして、質の向上を図るとともに、全センターの統一性を図り、そのことを通してこれからの我が国の総合相談事業のあるべき姿を指し示していく役割を果たしていきたいと思っています。また、県内のすべての関係機関との連携を図るための在り方を作り出していきたいと思っています。毎年、県が中核センターと各圏域の市町村との意見交換会を開催していますが、この仕組みも大事にして各市町村との連携を深めていきたいと思っています。同時に当然ながら、県当局と中核センター事業を委託されている実施主体との意見交換を通して事業目的とこれからの在り方についても共有していきたいと考えております。

改めて、千葉県の地域福祉の発展ために県内各関係者の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

「NPO法人 こだま」代表 近藤けい子 氏

こだまを始めるきっかけは…一宮町で、町・社会福祉協議会で10数年間、家庭奉仕員、ホームヘルパー、ケアマネージャーをやってきました。その間、色々なことを思い、煮詰まった部分があり退職を決意。同時期の平成15年、千葉県の地域福祉支援計画（以下、計画）が発表され、県レベルのタウンミーティングに参加し、県内の頑張っている方々の姿を目の当たりにしました。「自分の住む地域でも」と思い、長生・いすみ地区のタウンミーティングを開催。障害分野の方々との出会いがとても新鮮でした。前職の関係で高齢分野のネットワークは持っていましたが、「双方が繋がったら何ができるのだろう…」と気持ちが高まりました。計画では、「誰もが ありのままに その人らしく 住み慣れた地域のなかで 暮らし続けていけるために」と目標を掲げています。「立派な計画があり、自分はその片隅にいるわけだが、自分には何ができるのか…やはり、一人ひとりの活動があって計画が成り立つ。計画を現実のものにしたい。」と強く思いました。当時、千葉県では介護保険のサービスを身体障害者のみならず、知的、精神障害者、障害児も使えるように制度、分野の枠を越えた「健康福祉千葉特区」を推進していました。富山型サービスの原点である惣万氏の「このゆびとまれ」を視察する機会もあり、自分の生活する地域でもこのようなことができたかと思いました。

こだまができるまで…拠点となる場所を歩き探し、出会ったのが築190年、懐かしさを感じる、高齢者にとってなじみのある古民家でした。以前、他団体が借りようとした時に地域の方の抵抗があったこの場所の借借はスムーズにはいきませんでした。一年間をかけて自分たちの思いを伝え続け、ついに家主、地域の方の理解を得ることができました。次に建物の中を改修するために多額の資金が必要でした。しかし、使える公的な助成がなく、多くの方に債権（無利子借入金）を呼びかけ、約1千万円の資金が集まりました。他にも、水道や電気関係を専門にやっている仲間が安く工事をしてくれたり、できる部分はボランティアの協力を得ながら自分たちで改修しました。夢を応援してくれた地域の多くの方の協力があり、今のこだまがあります。

こだまでは…「ご飯が美味しい！」と利用者さんが大絶賛です。地元のものを使い、品数豊富なできたての食事が食卓に。職員も利用者さんと同じ食卓と一緒に食べることを大切にしています。かつて、食事介助の職員が脇に立っている姿や別室で別のものを食べていることに疑問を持っていました。自分のところではやりたくないという思いです。

また、こだまでは誰でも受け入れています。今まで関わったことのない障害を持った方がこだまを利用してくれることで、その都度勉強し、それが自分たちの成長、財産になっています。高齢者、障害を持った方などスタッフを含め様々な人が一緒にいると、丸く収まることだけではありません。高齢者の中には、今まで障害を持った人に会ったことがない人もいて、「何であの人は急に体が動くんだ、話せないんだ。」とストレートに言います。お互い今まで知らなかった世界。時間をかけて相手を知り、認めていくことの大切さに気がつきます。こだまでの日常は、ある意味当たり前な社会であり、社会を映し出していると思います。

やっと、8年目になりました。

事業所名 ■ 特定非営利活動法人 こだま
所在地 ■ 〒299-4404 千葉県長生郡睦沢町北山田172
事業内容 ■ ディサービスこだま/ホームヘルプこだま
ケアプランこだま/たすけあいこだま
TEL/FAX ■ 0475-44-2665
Eメール ■ npo-kodama@lemon.plala.or.jp
HP ■ <http://www13.plala.or.jp/npo-kodama/>
※日・祝日は留守番電話に用件をお伝え下さい。折り返しお電話いたします。





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

千葉県里親大会～子どもたちは里親を求めています～

〔主催〕 千葉県、千葉県里親会

〔内容〕 ◆ミニ講演 「私の養育体験」 山中ゆりか氏（千葉市・専門里親）

「里親への新生児委託」 萬屋育子氏（前・愛知県刈谷児童相談センター長、愛知教育大学大学院特任教授）

「里親家庭の不調とその予防」 竹下利枝子氏（千葉県中央児童相談所長）

◆パネルディスカッション「里親制度の最近の動き ～社会的養護の課題と将来像・里親委託ガイドラインなど～」

パネリスト 山中ゆりか氏/萬屋育子氏/竹下利枝子氏

◆行政説明「千葉県の社会的養護の現状」

〔日時〕 平成23年10月29日（土）13時～16時（受付開始 12:30） 〔参加費〕 無料

〔会場〕 ホテル プラザ菜の花 千葉市中央区長洲1-8-1 〔募集人数〕 100名（申込み先着順）

〔申込み〕 下記の内容をFAXまたはメールにて、下記申込み先にご連絡ください。

①氏名、②職業、③住所、④電話番号、⑤メールアドレス

※託児を希望する方は、子どもの人数、氏名、性別、年齢、託児の際の留意点

NPO 法人 千葉県里親家庭支援センター FAX:047-373-1063 E-mail: fosterfamily926@gmail.com

心の健康フェア 2011in ちば「つながれ・広げれ・こころのエール！～僕らの未来に～」

〔主催〕 千葉県、NPO 法人千葉県精神保健福祉協議会

〔内容〕 ◆作品展示（10時～12時45分） 県内の病院、障害福祉サービス事業所などで作られた作品の展示

◆心の健康相談コーナー（10時～12時45分）

◆講演（10時30分～11時30分）「CHAlleNGE!～Challenge（チャレンジ）の中にはChange（チェンジ）がある～」 講師 市来 真彦 氏（東京医科大学茨城医療センター メンタルヘルス科 科長）

◆表彰（13時～13時30分） 千葉県精神保健福祉事業功労者知事表彰等

◆ちょっとブレイク「皆でのびのび健康体操」（13時35分～13時45分） NPO 法人ぴあ・さぼ千葉 横山 典子 氏

◆劇（13時45分～14時40分）「こころのバリアフリー」 すずらん劇団

◆今の私から未来の私への応援メッセージ（エール）（14時45分～15時10分）

〔日時〕 平成23年11月2日（水）10時～15時10分 ※手話通訳有・入場無料

〔会場〕 青葉の森公園 芸術文化ホール（千葉市中央区青葉町977-1） 〔申込み〕 不要

※当日が晴天の場合、他の大会があり、駐車場の混雑が予想されます。なるべく公共交通機関のご利用をお願いします。

天災などの不測の事態により急遽中止する場合には、千葉県精神保健福祉センター、及びNPO 法人千葉県精神保健福祉協議会のホームページにその旨を掲載しますので、ご確認ください。

〔お問い合わせ〕 千葉県健康福祉部障害福祉課 電話：043-223-2334

千葉県精神保健福祉センター 電話：043-263-3891

ひだまり（安房圏域）

所長 香田 道丸

私ども「ひだまり」は、他圏域の中核地域生活支援センターと同様、24時間365日「いつでも・どこでも・どんなことでも」受け止められる支援体制をしき、高齢者や児童・障害のある方等、種別にこだわらず、横断的に地域のニーズに対応していく事を目的として活動しています。

担当する圏域は、千葉県南部、安房群市の3市1町（館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町）です。

当センターには、5人のコーディネーターと、障害者グループホーム等支援ワーカー1名が在籍しています。事務所は、館山市の安房地域医療センターという救急病院の敷地内にあり、病院の医療福祉相談室と机を並べて活動しています。国道に面しているので、アクセスしやすくとても分かりやすい場所です。安房圏域の人口は、約13万7千人。内房と外房の海に囲まれ、緑も豊か。温暖な気候にも恵まれ、一年中過ごしやすく、のんびりとした地域です。「房州人は、あばら骨が一本足りない」なんて言葉があるくらいおっとりとした地域です。しかし、圏域内の全市町が高齢化率で県下トップ10に入るなど、高齢化率や過疎化が最も進んでいる地域であり、

独居や老々介護等、介護者不足や貧困が大きな問題として横たわっている地域でもあります。同様の理由で、生活に必要な交通手段や就労先がとても少なく、若い世代が離れてしまう為、過疎化・高齢化に歯止めがかかりません。また、児童や障害者が利用できる社会資源が乏しく、家族がレスパイトできないことも大きな問題となっています。そのため、

「利用できるサービスを探して欲しい」という方や、「通院手段が無い」という方の相談が珍しくありません。これらの問題に対応するため、私たち「ひだまり」は、ご本人・ご家族はもちろん、保健所や各市町福祉課・児童相談所等の行政機関、特別支援学校等の教育機関、警察や弁護士・司法書士、民生委員やNPO団体等、可能な限りあらゆる機関とネットワークを結び、連携しています。



中核地域生活支援センター ひだまり
〒294-0014 館山市山本 1155 番地
TEL:0470-28-5667 FAX:0470-28-5668
E-mail:hidamari@i-hidamari.com

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：香取ネットワーク（香取圏域）香取市北1-11-18 TEL:0478-50-2800 FAX:0478-50-2881

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：丸山）までお願いします。